



新しい眼科検査機器～360°隅角カメラの世界1号機を導入しました

眼科学講座 教授 たにと まさき
谷戸 正樹

隅角は角膜周辺部に位置する組織で、その形状や機能の異常を検出することは緑内障や虹彩炎などの診断に必須です。隅角の観察は、医師が隅角鏡と顕微鏡を組み合わせた手法で行いますが、技術的な難度が高く、また、全周の隅角所見を写真に記録することも困難でした。

われわれは以前から、イタリアの企業と共同で、隅角全周の写真撮影が可能な眼科機器の研究開発に携わってきました。その機器が360°隅角カメラGS-1（ニデック社）として、2018年9月末に検査機器として認可され、市販第1号機が国内外の他の施設に先駆けて当院の眼科外来に設置されました。本機器は、隅角を16分割してそれぞれの場所で1秒間に17枚の写真撮影を自動で行うことが可能で、医師だけでなく視能訓練士も撮影をする事ができます。写真の解像度も高く、これまで発見が容易でなかった微細な病変も検出し記録することが可能になりました。

本機器の導入により、緑内障をはじめとする眼疾患の診断精度向上と病態研究の進展が期待されます。



図1 360°隅角カメラGS-1
(ニデック社)の外観



図2 全周隅角の写真

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

1月15日～2月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
1/15(火) 9:30～11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
1/17(木) 18:30～19:30	平成30年度 第2回 臨床研究・統計セミナー 「利益相反(COI)、知的財産について 研究者が知っておくべきこと」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 大野 智 教授	みらい棟4階 ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
1/19(土) 18:00～19:00	第23回出雲リハビリテーション研修会 「周術期がん患者におけるリハビリテーション治療の実践」 和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学講座 教授 文部科学省認定障がい者スポーツ研究拠点センター長 田島 文博 先生	★出雲医師会館 大ホール	医療 本学	出雲リハビリテーション 研修会
1/26(土) 13:30～14:30	島根大学 市民公開講座 「肝臓?なあんた?」 島根大学 総合科学研究支援センター 山田 高也 准教授 「今、注目されるB型肝炎のお話」 島根大学医学部附属病院 肝臓内科 矢崎 友隆 医科医員	看護学科棟 2階N21教室	一般 本学	島根大学 研究機構 総合科学研究支援センター 実験動物部門
1/26(土) 13:30～16:00	在宅医療を考える市民の集い 「あなたのお家で、今日からできるケアの話」	みらい棟4階 ギャラクシー	一般 医療	島根大学医学部地域 医療政策学講座 医学部附属病院
2/11(月・祝) 13:30～15:30	浜田市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2019早春 島根大学医学部附属病院 循環器内科 教授 田邊 一明 島根大学医学部附属病院 婦人科 准教授 中山 健太郎 島根大学医学部附属病院 眼科 教授 谷戸 正樹	★石央文化ホール 小ホール	一般	島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

・年頭のごあいさつ 2019
・拡大読書器を使った
視覚リハビリテーションを行っています

・新しい眼科検査機器～360° 隅角
カメラの世界1号機を導入しました
・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報



年頭のごあいさつ2019

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

あけましておめでとうございます。昨年も地域の医療機関から多くの患者さんをご紹介いただき、誠に有難うございました。心より御礼申し上げます。本年も大学病院としての役割を果たすために、先進的医療・高度医療の開発と提供、がん医療、急性期医療と救急医療の充実、優れた医療人の養成、透明性の高い医師派遣の実施、臨床研究、災害医療対応等を更に推進いたします。

診療では、循環器内科を中心とした総合ハートセンターでは、2017年8月に稼働を開始した高度外傷センター棟内のハイブリッド手術室を利用して、2018年4月から大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を島根県で初めてスタートし、順調に症例を重ねています。高齢化率が高い島根県においては開心術に比べて低侵襲である TAVI の実施が可能となったことは意義深いと思います。がん治療については、これまで当院が都道府県がん診療連携拠点病院としてのハブ機能を果たしていますが、がんゲノム医療連携病院としての役割も担っています。

昨年末には、がんゲノム医療に関する二つの遺伝子検査システムが厚生労働省の部会で了承され、検査対象は固形がんの再発、標準的な治療の対象とならない進行がん、希少がん、小児がんなどに限定されていますが、いずれ公的医療保険が適用された治療が当院でも実施可能となります。一方では、ロボット支援手術推進センターが診療報酬改定で保険適用が拡大された手術を安全に実施する体制を構築し、肺、食道、直腸などのがんに対してダ・ヴィンチ Xi を用いた手術を行っています。放射線部門では、MRI の4台稼働がスタートし、最新の半導体 PET/CT 導入に向けた準備を始めており、がん診療の水準は一段と向上します。

診療以外では、臨床研究実施体制の強化が大学病院としての重要な目標の一つであり、臨床研究センター長に大野教授が着任し、臨床研究法に則り設置した臨床研究審査委員会の審査を経て、未承認・適応外の医薬品等の臨床研究、企業等から資金提供を受けた医薬品等の臨床研究を開始しています。他には、これまで学生の解剖実習等に限定されていた献体の使用が臨床医学に拡大されていることから、実践的で安全な手術手技向上を図るサージカルトレーニングセンターの運用を新年度から開始する予定としています。

本年も、診療および透明性の高い医師派遣を通して、地域の医療に一層貢献できる病院となるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



拡大読書器を使った 視覚リハビリテーションを行っています

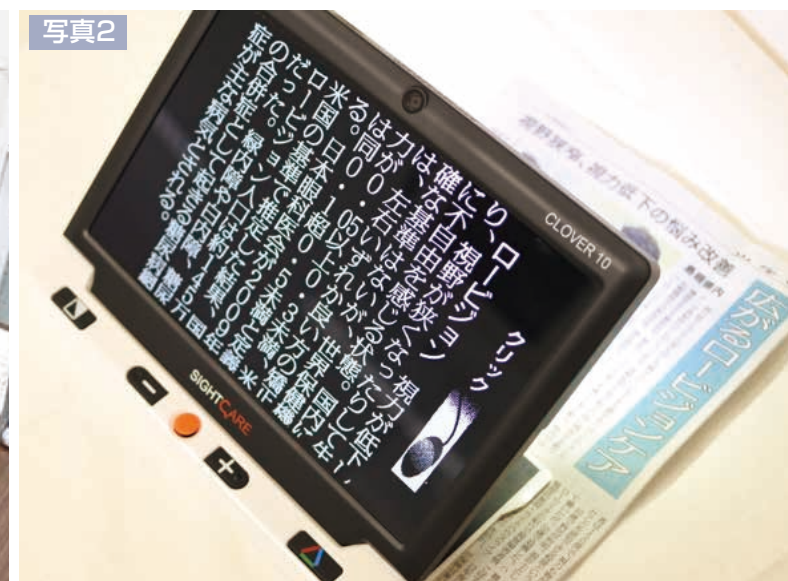
眼科学講座 助教 はら かつのり
原 克典

2018年1月から週1回、月曜日のロービジョン外来を開設し1年が経過しました。1年間で、のべ50名の見えにくさを抱える方が受診されました。新聞を読むのに必要な視力がおよそ0.5とされており、眼鏡を掛けても0.5まで見えない方は、何らかの方法で文字を拡大すると読みやすくなる場合があります。ルーペがその代表的なものですが、ルーペでも見えにくい方には、拡大読書器をお勧めしています。

拡大読書器も色々なタイプがありますが、最近では、軽くて持ち運びが便利なタブレットタイプが人気です(写真1)。拡大読書器では、単に文字を拡大するだけではなく、背景を黒に、文字を白にして見えにくい方でも読みやすいように画面を変えることができます(写真2)。また、カメラを切り替えることで、自分の顔を写すこともできます。女性で、化粧をしたくても鏡では自分の顔がよく見えないという方でも、見えるように拡大して化粧ができるようになるかもしれません。

このような、多くの機能をもつ拡大読書器は、視力低下により生活に困難を抱えた方の生活を取り戻す助けとなる補助具ですが、まだ一般的な認知度が低く、ご紹介した方には、「こんなに便利なものがあるならばもっと早く教えてもらえば良かった」と言われることがしばしばです。身体障害者手帳(視覚障害)をお持ちの方であれば、補助申請をすることで少ない負担で購入が可能です。

今後も、ロービジョン外来を通じ、見えにくい状態となった方の「見える」を回復する活動を継続してまいります。





島大病院ニュース 2019年1月

ご報告



クリスマスイルミネーションの点灯式を行いました

当院では、入院中の患者さん、小児患者さんに寒い冬の夜を少しでも楽しく温かい気持ちで過ごしていただけるように、毎年、冬の到来とともに庭園をイルミネーションで飾ります。

2018年12月5日(水)病棟南側庭園のイルミネーション点灯式が病院2階食堂ラパンで行われました。

うさぎ保育所の子どもたちが心待ちにしていたイルミネーションが、カウントダウンの後「点灯!」の掛け声と同時に、庭園を明るく飾りました。会場からは「わぁー」という歓声が湧き上がり、子どもたちは光の美しさに目を輝かせていました。

引き続きイベントが行われ、子どもたちは元気いっぱい「クリスマスおめでとう」、「荒野のはてに」、「サンタが街にやってくる」を歌いました。

その後、看護師のハンドベルチームが登場。澄んだ音色でクリスマスソングを演奏し、会場に華やかさを添えました。

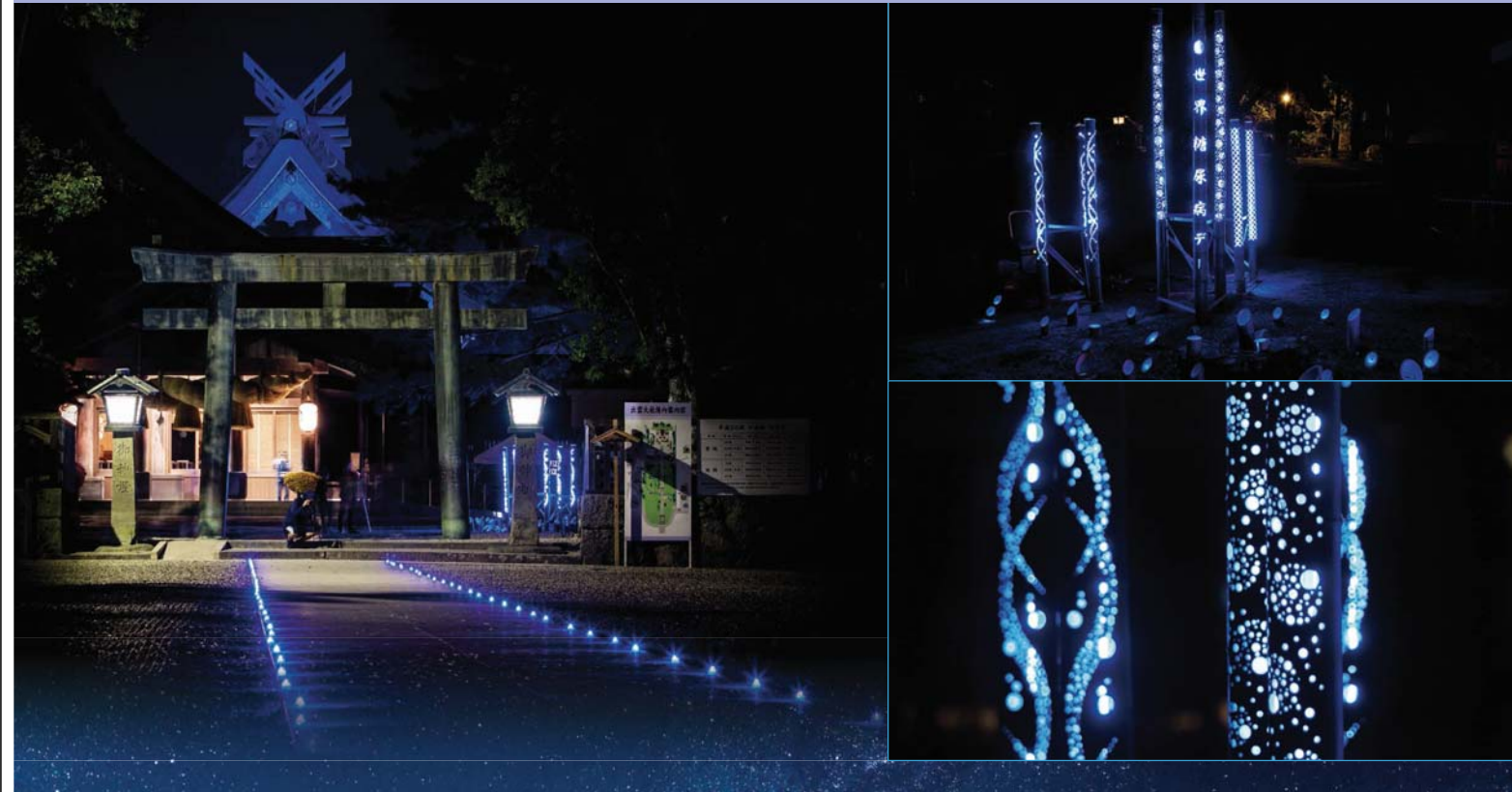
終わりに、井川病院長と神田看護部長の二人のサンタさんから子どもたちにプレゼントが手渡されました。イルミネーションと喜ぶ子どもたちの笑顔で、皆が温かい気持ちになりました。

庭園のイルミネーションは冬季の間お楽しみいただけます。幻想的な光の世界をどうぞご堪能ください。



島大病院ニュース 2019年1月

ご報告



第4回「世界糖尿病デー」 出雲大社ブルーライトアップを開催しました!

内分泌代謝内科 助教 もりた みわ
守田 美和

2018年(平成30年)11月10日、晴天・星空のもと第4回「世界糖尿病デー」出雲大社ブルーライトアップを無事開催することができました。

今年も医療医薬の神様が祀られている出雲大社で開催させていただくことができ、関係者の皆さまの変わらぬご理解とお力添えに心より感謝申し上げます。

このイベントは当院の糖尿病チームで実行委員会を結成し、様々な方のお力をお借りし手作りで開催いたしました。私たちは病院での診察・治療だけではなく、啓発活動にも力を入れています。今年は、御本殿のブルーライトアップの他、プラスバンド演奏、ご当地キャラによるブルーのケミカルライト配布、小ライトイルミネーション、ドリルを使って作成した竹あかり点灯など新しいことも取り入れて好評でした。

このイベントが「綺麗だね」にとどまらず、皆さんにとって糖尿病だけではなく健康についても考えていただけるきっかけになることを願っております。また、糖尿病診療に関わる熱い思いを持った医療スタッフがあり、安心して糖尿病予防の取り組み、治療を受けていただける環境にあることを知っていただけたら嬉しいと思っています。

ありがとうございました。

ご報告
島大病院ニュース

平成31年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

平成31年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

速報

「専門研修専攻医の動向 一次登録の集計」

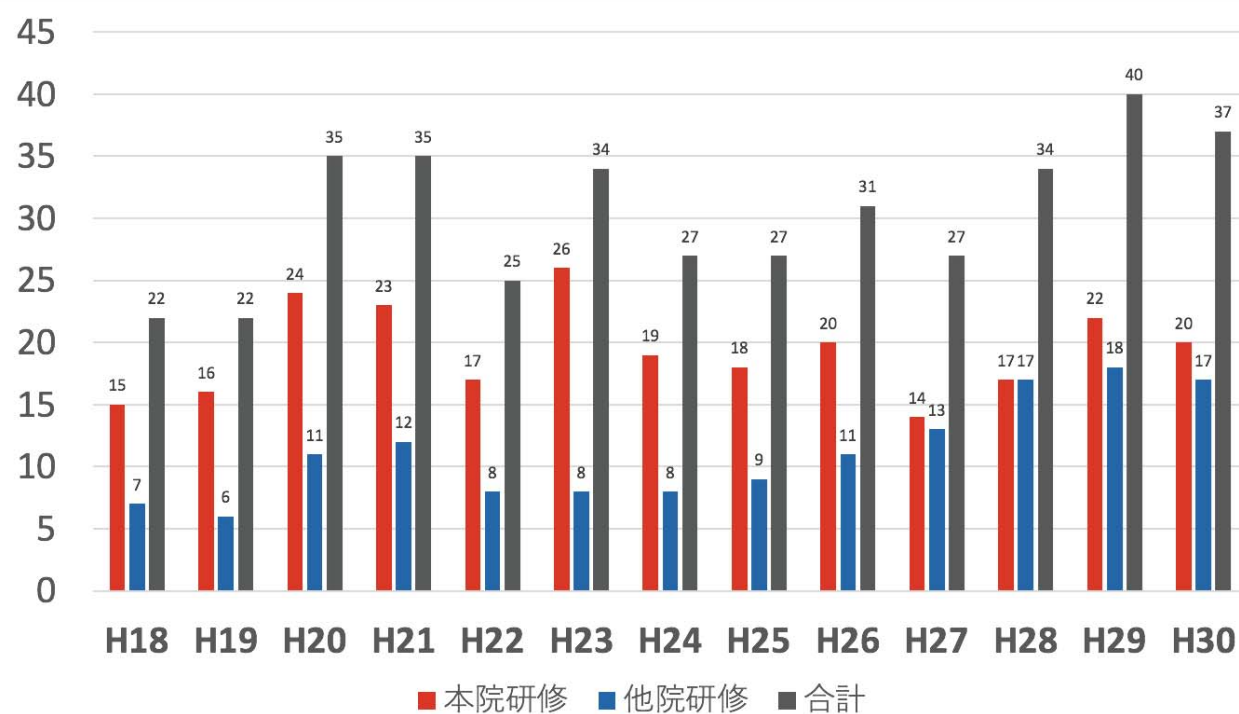
卒後臨床研修センター センター長 おにがた かずみち
鬼形 和道

平成31年度の専門研修専攻医の1次募集が、11月21日に締め切られました。現在のところ、本院への応募者は29名であります。

昨年の実績を下回っていますが、その背景に2つの要因が考えられます。1つは県内で初期研修を修了予定の55名のうち島根大学以外の出身者が21名（内、鳥取大学18名）と例年よりも多く、県外の母校等で専門研修を予定しています。もう1つは、県内の初期研修医（2年次）の動向調査から、本院以外の専門研修を選択する者が数名、また専門研修先が未定の者が10名余りおります。

専攻医の2次募集は12月22日から開始されます。一定数の者が本院の専門研修へ応募するものと見込んでおります。昨年までの後期研修医あるいは専攻医数の動向を図に示します。ここ数年は初期研修を本院以外でおこない専門研修を本院でおこなう者が増えています。専攻医40名の確保を目標に活動します。

後期研修医・専門研修専攻医受入れ人数



島大病院ニュース 2019年1月

ご報告



ワークライフバランス週間応募作品の表彰式を行いました

ワークライフバランス支援室 室長 かんだ まりこ
神田 眞理子

当院は、すべての職員が「仕事と家庭の調和」を実現できる職場づくりを目指して活動しています。

その活動の一環として、ワークライフバランス支援室と看護部PNS推進委員会では、職員がWLBについて考えるきっかけになればとの思いから、平成26年度より11月23日の勤労感謝の日をはさむ一週間をWLB週間としています。第5回目となる今年度は、「WLB川柳」、「わたしの働く源写真」、「各部署のWLB実践例」を職員より募集し、職員投票を行いました。そして12月5日の表彰式では、井川病院長より受賞者へ表彰状と副賞が贈呈され、副賞が読み上げられると、各先生方からのそれぞれの受賞作品にちなんだ品に、毎回感嘆の声や笑いが起こるなど、和気あいあいとした式でした。井川病院長から、「川柳を詠むということは、心にゆとりがないと生まれえない。これからも、それを大切に日々励んでいただきたい。」とのお祝いの言葉をいただきました。WLB週間企画の募集では、回数を追うごとに応募作品が増え、職場でのWLB推進が浸透してきていることが感じられました。

今後も、職種・性別の区別なく全ての職員が働きやすく、キャリアアップができる病院作りをめざして活動を継続してきたいと思います。

<WLB川柳優秀作品一覧>

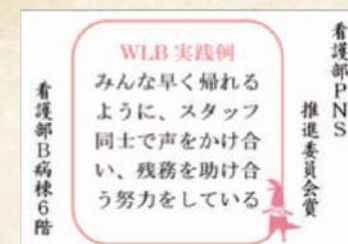
- ◆井川 病院長 賞「残業代 減る分増える この笑顔」 S・Tさん
- ◆並河医学部長賞「休憩中 今宵のおかずを 検索中」 ゆづママさん
- ◆椎名副病院長賞「新婚の 夫の側より 職場いる」 主婦レベル1さん
- ◆廣瀬副病院長賞「じじばばも PNSで 孫育て」 ブンタさん
- ◆齊藤副病院長賞「ありがとね 明日への私の 糧となる」 大食いぷーさん
- ◆神田副病院長賞「『ありがとう』言われて明日も がんばれる」 感謝感激雨嵐さん
- ◆長塚事務部長賞「遠慮せず 家族のために 年休を」 修造さん

<WLB好実践例>

- ◆看護部PNS推進委員会賞
看護部B病棟6階
「みんな早く帰れるように、スタッフ同士で声をかけ合い、残務を助け合う努力をしている」

<「わたしの働く源」写真優秀作品>

- ◆WLB支援室賞
Y・Wさん
「ひと漕ぎ30分に今日一日の達成感と明日への自信が詰まっています。」



平成31年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成31年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

第82回 日本皮膚科学会東部支部学術大会会長賞を受賞して

にい はら ひろゆき
皮膚科学講座 講師 新原 寛之

この度の受賞を受け、フィールドワークの重要性が再認識されたと大変光栄に思っております。当院で下肢静脈瘤外来を設置し、診療に従事する中で患者数の多いことに気づきました。有病率を知るため文献を調べたところ、海外では大規模な住民調査が報告されている一方で、本邦では病院施設内での調査に終始している状態でした。そこで、地域包括ケア教育研究センターの主催するShimane CoHRE Studyの調査基盤を活用して疫学データを収集しました。その結果、下肢静脈瘤の有病率は地域高齢者で15～20%もあることがわかりました。さらに、発症要因の解析により、飲酒・喫煙が相互に下肢静脈瘤の発症に影響していることもわかりました。

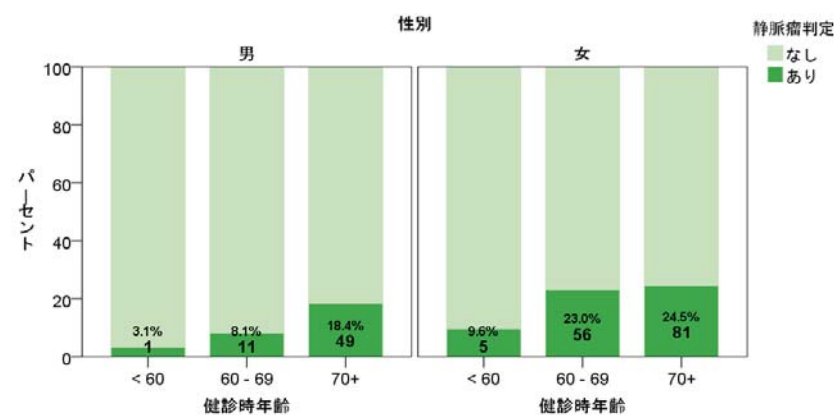


本疫学調査は、多分野の研究者が関わることにより運営されています。調査には当院のクリニカルスキルアップセンター（センター長 狩野賢二先生）のポータブルエコーを借用しました。こうした恵まれた環境で調査・研究に携わることができて心より感謝する次第です。

下肢静脈瘤 疫学調査の様子



下肢静脈瘤の有病率（Shimane CoHRE Study対象者）



ご報告

心不全ガイドライン改訂に伴う 今後の心不全診療の展望

循環器内科 助教 おかだ たいじ
岡田 大司

2018年に『急性・慢性心不全診療ガイドライン』が改訂され、急性心不全の治療における時間経過と病態を踏まえた治療、慢性心不全のステージ毎の治療・増悪予防(図1)について整理された事に加え、多職種チームによる管理や緩和ケアについても重要視されています。

生存率を上げるためのガイドラインに基づく治療の遵守率は、各施設で大きな差があるといわれています。医師・看護師による生活指導、心臓リハビリによる運動耐用能改善効果、薬剤師による薬剤コンプライアンスの改善、栄養士による栄養指導などの多職種による介入は、ガイドライン遵守率の向上、コスト削減、再入院率の低下につながります。また、高齢者の心不全の場合は、独居などの複雑な社会的背景が問題となる事もしばしば経験され、ケアマネジャーやソーシャルワーカーの介入も重要となります。高齢者の心不全入院が多くを占める当院においても、週1回『心不全カンファレンス』を開催し、心不全患者さんについて、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーで包括的に介入することで心不全増悪予防に努めています。

今後は、癌とは違う病みの軌跡を辿る(図2)心不全の末期状態(最大の薬物治療や非薬物治療を施しても治療困難な状態)や終末期(繰り返す病像の悪化あるいは急激な増悪から、死が間近にせまり、治療の可能性のない状態)に対する多職種での緩和ケア介入を行える体制作りが必要と考えています。

心不全患者は今後ますます増えていく事が予想されます。病診連携・病病連携の強化が島根県の心不全診療の向上につながると考えております。医局員一同、島根県の循環器診療に貢献できるよう尽力する所存でございますので、今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

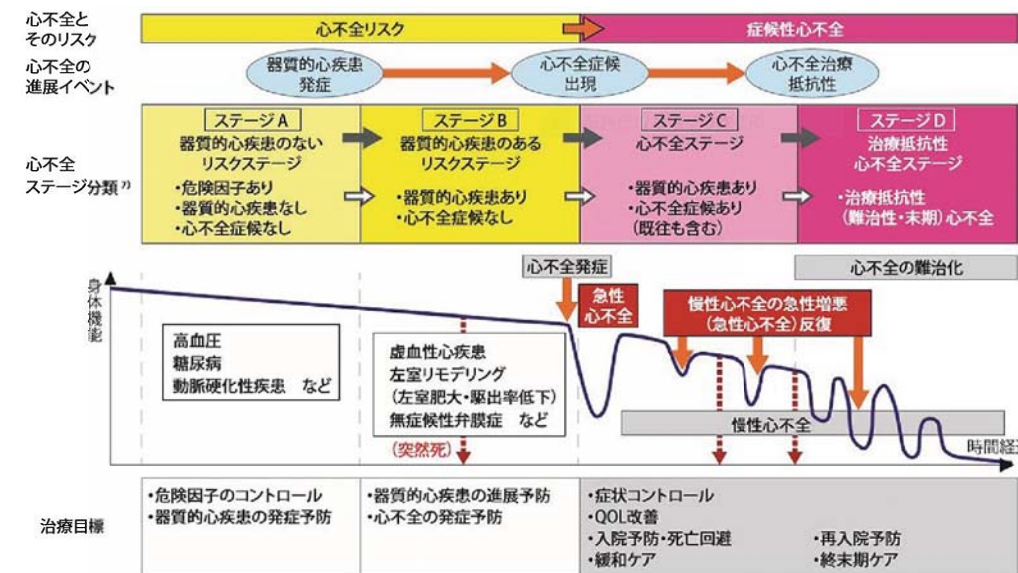


図1 心不全とそのリスクの進展ステージ

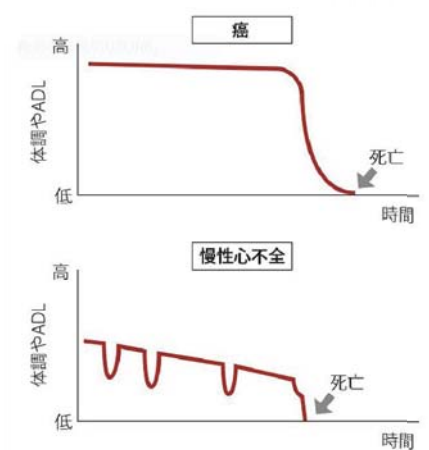


図2 癌と慢性心不全の終末期の経過の比較

引用: 日本循環器学会/日本心不全学会合同ガイドライン 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)





島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

形成外科の専門領域：顔面と創傷

形成外科 診療科長 はやしだ けんじ
林田 健志

形成外科では、顕微鏡を用いたマイクロサージャリーにより、様々な疾患の治療を行っています。形成外科の対象部位は頭部から足先までの全身すべてですが、その中でも顔面が最も得意な領域になります。露出部である「顔」はとてもケガを受けやすい部位です。子供のときに転倒して、顔のケガをした経験をもつ方も多いと思います。顔は他人から見られる部位であり、機能のみならず整容的な治療も望まれます。そのため、より慎重で専門的な治療が必要です。近年は創傷を治すための薬剤や、デバイスの発達がめざましく、キズあとをより目立たなくすることも可能となり、また、キズが治ったあとにケロイドとなった場合にも、放射線治療科と協力して、電子線と形成外科的手術の併用を行うことで完治が目指せる時代となりました。

国内トップレベルの形成外科医療を提供できる体制が整いつつあり、地域の先生方にはこれまでと同様な、ご指導とご支援を今後もいただければ幸いです。

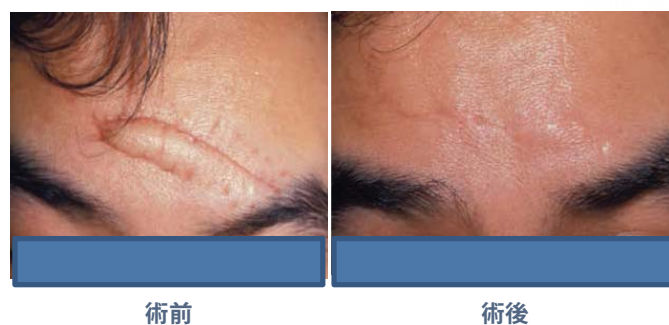
図1 顔面の損傷治療例

耳下腺管や、顔面神経の断裂部を顕微鏡下に吻合し、頬骨骨折を整復後、皮膚もきれいに縫合閉鎖した。顔面神経麻痺も改善し、機能面でも整容面でも問題なく治療した。



図2 キズあとが目立つ患者の治療例

顔面のケガの瘢痕が目立つため、形成外科的手術を行った。



島大病院ニュース 2019年1月

ご報告



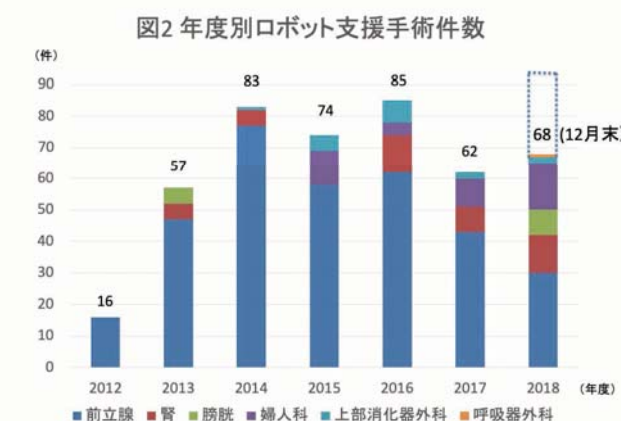
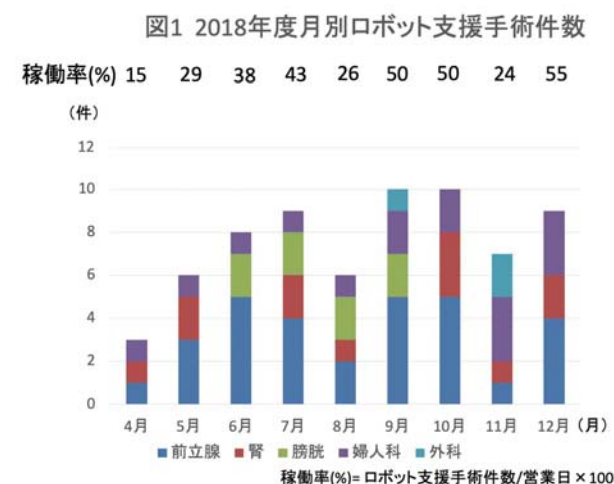
当院のロボット支援手術について

ロボット支援手術推進センター センター長 やすもと ひろあき
安本 博晃

4月に12件の術式についてロボット支援手術の保険適用が拡大されたことに伴いロボット支援手術推進センターが開設されました。その後、新規術式の導入が進んで参りましたので現在までの状況についてお知らせします。

婦人科で良性疾患に対するロボット支援腔式子宮全摘術が4月に行われ、以後、膀胱癌(泌尿器科)、子宮体癌、縦隔腫瘍(呼吸器外科)、食道癌(消化器外科)に対して5つの術式が導入されました。いずれも安全に導入され、術後経過も順調です。

今後、呼吸器外科では肺癌に対する手術も導入予定です。また、現在、直腸癌に対する手術の準備中で、1月以降に導入される予定です。da Vinci surgical systemの稼働率も徐々に上昇し、9月以降は50%を超えるようになりました。年度末には年間手術件数も90件以上になると予測されます(図1、2)。ロボット支援手術推進センターでは、引き続き、新規術式の安全な導入をサポートし、患者さんに利益がもたらされるよう活動していきます。





島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

出雲市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」 2018冬を開催しました！

12月22日(土)出雲市民フォーラムを医学部臨床講義棟臨床小講堂で行いました。

毎回、多彩な講師とテーマで人気のこのフォーラムは出雲で4回目の開催となりました。

冬季にもかかわらずお越しいただきました、111名の参加者の皆さんは、講演に熱心に耳を傾け、講師に質問を投げかけていました。

講演後のアンケートには、「大変分かりやすかった。医療が進歩していてすごいと思いました。」「幅広く病気に関心を持つことができて良かった。」などのコメントがありました。



緑内障の治療について
～新しい手術を中心に～

眼科 教授 谷戸 正樹



炎症性腸疾患センターの取り組み
新しい適切な診断と治療を求めて

消化器内科 准教授 石原 俊治



膀胱がんの治療について
～新しい治療薬と手術～

泌尿器科 准教授 安本 博晃



平成31年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

病院機能評価訪問調査が実施されました

病院機能評価受審WG総括 病院医学教育センター センター長 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

本院では、地域住民のみなさんから「頼れる病院」となるべく、環境マネジメントシステム、プライバシーマーク、ISO15189(検査部)やISO9001(薬剤部)など多数の第三者評価認証(認定)を取得しています。公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価もその一つで、これまで受審準備の進捗について報告してまいりました。

その病院機能評価について、11月28日～30日の3日間、OJTを含む12名のサーベイヤーによる訪問調査が実施されました。病院機能評価も時代や患者・住民の意識やニーズの変化に合わせ、評価体系がその都度改訂されています。今回はこれまでの一般病院2ではなく昨年4月に開始されたばかりの特定機能病院を対象とした一般病院3で受審しました。同時に、本院は副機能として「精神科病院」の審査も対象となっています。

これまでの調査との大きな違いは、本院で提供される診療・看護のケアプロセス調査が5病棟で実施され、これに医療安全および薬剤の専門家による病棟ラウンドが加わり、医療安全に対する社会的要請に応じた審査となっています。しかも、これらは第1日目の2病棟以外は評価機構からの病棟指定によるものです。このことから、これまでとは異なる厳しい受審となりましたが、職員一丸となり同じ目標に向かって取り組むことで、医療の質の向上とともに職員の患者中心の医療や安全に対する意識の向上につながったことは間違いありません。

本院では県内唯一の特定機能病院として、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念として質の高い医療を目指して、尽力したいと考えています。今後とも地域のみなさまや関係諸機関のご支援ご協力をお願い致します。



平成31年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

ヘリコバクター・ピロリ陰性時代の 消化管癌の早期診断と内視鏡治療の改善に向けて

消化器内科 教授 きのした よしかず
木下 芳一

島根大学医学部附属病院消化器内科では食道、胃、大腸腫瘍の内視鏡診断と治療の改善に向けた研究を続けてきました。その結果、内視鏡治療の成績は目覚ましく改善され、現在では当院は県内で最も多くの内視鏡治療を行う医療機関となっています。

ところが、近年の急激なヘリコバクター・ピロリ感染者の減少の影響を受け、胃がんの特徴が大きく変わりつつあります。当院消化器内科では、ピロリ未感染者にラズベリー様の外観をもつ新しいタイプの胃がんが発生していることを世界で初めて発見し報告しました。この新型の胃がんは、当院で切除した全胃がんの約8%を占めています。ピロリ未感染胃がんでも多いタイプである可能性があるため、学会や論文を通して注意喚起を行っています。

食道癌は今でも増加を続けていますが、食道癌の内視鏡治療成績の改善と患者さんの安全性の向上を目指して、当院では食道癌の内視鏡治療は原則麻酔科の協力のもと手術室で行っています。さらに癌切除後に起こってくる食道狭窄を予防するために食道運動能の評価装置を駆使して狭窄予測を行うとともに、薬剤の食道内局所塗布を用いた新技術を開発し効果的な狭窄予防も行っています。今では食道の全周に及ぶ病変の内視鏡切除も可能となっています。

消化管腫瘍で内視鏡切除を希望される患者さんがおられましたら、当院光学医療診療部の柴垣広太郎講師にご相談いただきますと幸いです。

問合せ先 第2内科 TEL: 0853-20-2190

ラズベリーポリープ



最近5年間の内視鏡検査・治療件数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
上部内視鏡	3,489	3,629	3,950	3,847	3,938
大腸内視鏡	1,607	1,697	1,791	1,839	1,873
上部ESD/EMR					
喉頭癌	0	0	0	3	4
食道	19	16	38	40	54
胃	85	87	86	96	123
十二指腸	3	4	17	10	14
大腸ESD	24	38	28	40	26*
大腸EMR	385	447	460	459	478



平成31年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年1月

ご報告

小児外科における 「傷痕を残さない単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術」の治療結果

小児外科 小もり 久守 こうじ うきた あさみ いしばし しゅういち
孝司、浮田 明見、石橋 脩一

小児外科で2015年に開始した単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術は、傷痕が残らないことが最大の特徴です。今回、2015年1月から2018年10月までに当科で施行した26例（男児15例、女児11例、平均年齢7.6歳）の治療結果をまとめたところ、術後合併症の少ない、安心、安全な手術であることが証明されました。

手術は、臍内に孤状切開を置いて開腹し、3mmカメラ用ポートと5mm鉗子用ポートの2本のポートを挿入して行います（図1）。原則、5mm鉗子で虫垂を腹腔外に牽引し、体外で虫垂を処理しますが、体外へ牽引できなかった場合でも、穿刺型ディスポーザブル細径鉗子を追加して腹腔内で手術が行えるため、やはり傷痕が残りません（図2）。

単孔式で完遂できた症例は21例（81%）、穿刺型鉗子の追加を要した症例は5例（19%）でした（図3）。虫垂炎の高度進行例で、膿瘍形成や穿孔があっても、全例に傷痕を残さない手術が可能でした（表）。

術後在院日数は、平均5.2日で、術後合併症はダグラス窩膿瘍の1例のみで、急性虫垂炎で最も多い合併症である創感染を発症した症例はありませんでした（図4）。

当科における単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術は、整容性に優れ、膿瘍や穿孔の有無に関わらず完遂することができ、小児の急性虫垂炎の術式として有用と考えられました。



図1 臍部の様子(ポート2本)



図2 術後2カ月の傷痕

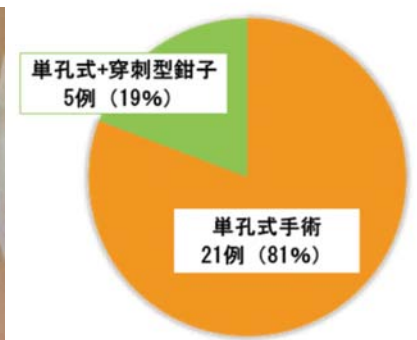


図3 単孔式手術数と穿刺型鉗子追加数

	単孔式（21例）	単孔式+穿刺型鉗子（5例）
穿孔あり	4例（19%）	1例（20%）
膿瘍あり	4例（19%）	2例（40%）

表 虫垂炎高度進行例の数

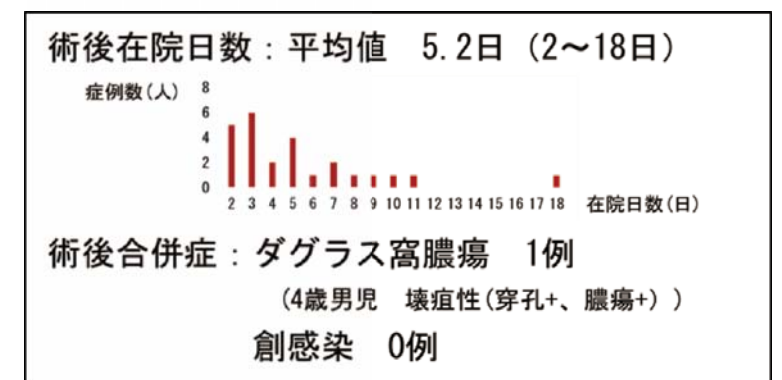


図4 治療結果：在院日数と術後合併症



平成31年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





地域医療を学ぶセミナーを定期開催しています

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

「地域医療」と聞いて、皆さんはどのような印象をおもちでいらっしゃいますでしょうか。「地域医療」は実は明確な定義に乏しく比較的新しい言葉です。僻地医療、在宅医療、多職種連携、地域包括ケア、医療政策、病診連携、救急、災害、公衆衛生等とリンクしていることは言うまでもありませんが、時代とともに「地域医療」の形は絶えず変化しています。

そこで、地域医療支援学講座では「地域医療セミナー」という地域医療を学ぶセミナーを定期開催しています。セミナーでは、医療の仕事の楽しさや地域医療の現状と課題が伝わる内容となっています。医学生向きに講演して頂いてはありますが、医師、看護師のみならず薬剤師、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)、ソーシャルワーカー、栄養士、心理カウンセラー、事務職など学内外医療関係者のご参加を歓迎します。是非、career@med.shimane-u.ac.jpに参加のメール連絡をして足を運んで下さい。加えて、講師の立候補・ご推薦についてもお知らせ下さい。よろしくお願いいたします。

平成30年度 地域医療セミナー講師一覧

平成30年4月20日(金)	佐藤 誠 先生	浜田市 健康福祉部 地域医療対策課 医療専門監
平成30年5月22日(火)	重富 悠乃 先生	社会医療法人石州会 六日市病院 内科・総合診療科 医師
平成30年7月4日(水)	平原 佐斗司 先生	東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 所長
平成30年9月14日(金)	齊藤 稔哲 先生	気仙沼市立本吉病院 院長
平成30年10月10日(水)	下条 芳秀 先生	島根大学医学部 Acute Care Surgery講座 助教
平成30年12月4日(火)	谷原 真一 先生	久留米大学医学部 公衆衛生学講座 教授
平成31年1月22日(火) 18:00~19:30	小早川 義貴 先生	国立病院機構災害医療センター 災害医療部 福島復興支援室
平成31年2月22日(金) 18:00~19:30	吉本 尚 先生	筑波大学 地域医療教育学 准教授

